



東北
応援

第7回ドリームキャンプ

今年も気仙沼大島キャンプ場にて開催!!



7月27日(金)
～29日(日)

毎年、ドリームキャンプ活動にご理解・ご協力頂き、ありがとうございます。皆様と共に育ててきたドリームキャンプも、今年7回目を迎えることになりました。この活動が地域に定着して、多くの子どもたちが楽しみにしてくれていることを大変うれしく思っ

共生共助の社会をめざす

ひかり新聞

2018.6.13
No.34

一般社団法人
ひかりプロジェクト



「第7回ドリームキャンプ気仙沼大島」は、キリン福祉財団「キリン・地域のちから応援事業」、大塚商会「ハートフル基金 復興応援プロジェクト」の2社2事業より、ご支援をいただくことが決まりました。

キリン福祉財団「キリン・地域のちから応援事業」は、「障害があってもなくても、高齢者でも子どもでも、日本人でも外国人でも、同じ地域やコミュニティで生活する一員として、共に理解し合い・支え合う共生社会の実現を願い、地域における障害児・者、高齢者、子ども等の福祉向上に関わるような幅広いボランティア活動を実施する団体に対して支援を行う」というものです。

また大塚商会「ハートフル基金 復興応援プロジェクト」は、『東日本大震災において、これまでさまざまな支援活動を行うなかで、2014年からは、被災地で頑張っている団体、または被災地の支援活動を行っている団体を対象に支援活動を継続しており、社員と会社のマッチングギフトとして長年さまざまな支援活動に活用してきた「大塚商会ハートフル基金」から、本プロジェクトの理念に合った活動(プロジェクト)に支援金を贈ろう』ということで、ドリームキャンプ活動が事業理念に合致しているとの高い評価を頂きました。

キリンと言えば、これから暑くなるシーズンには欠かせない清涼飲料やアルコール飲料のメーカーさんです。また大塚商会は、オフィス用品から生活用品や家電、介護用品まで幅広い品揃えの通信販売「たのめーる」でもお馴染みです。どちらも、私たちの生活を支える良きパートナーとして、公私共にお付き合いさせていただきたいと思えます。
(ドリームキャンプ実行委員会)



ています。また同時に、多くの方々が関心を持っていただき、ご支援頂いていることに責任と緊張を覚えます。今年も左記のように、社会貢献事業を行っている2団体より、助成金を頂くことになりました。これも私たちの取り組みへの評価だと思えます。
5月5日(祝)・6日(日)に気仙沼大島で下見を兼ねた研修会を開催しました。6月17日(日)には東京でもスタッフ会議を行います。一人でも多くの方のスタッフ参加をお待ちしています。
(ドリームキャンプ実行委員長 奥原幹雄)

一般社団法人ひかりプロジェクトにご入会のお願い!

お申し込み・お問い合わせは、事務局までご連絡ください。
どうぞよろしくお願いいたします。

ひかり募金にご協力を!

- ★ゆうちょ銀行
記号 10890 番号 16718311
- ★郵便振替
記号番号 00210-2-137823
一般社団法人 ひかりプロジェクト

特別寄稿

カンボジア支援レポート — 祈りをかたちにして —

田中真人

「本当に困っている人のために役立ててほしい」昨年4月、亡くなる直前に遺した母（繁美）の言葉を受け、『繁美基金』を設立しました。今回、その基金を元に、ポル・ポト派による大虐殺に苦しみ、今も十分な教育を受けられないカンボジアの人々のために、永続的な自立支援の運動を始めるために、

人々の生活を大きく向上させる「井戸の設置」をすることになりました。

そして、今年4月4日(水)から12日(木)まで、カンボジアを訪れました。

今回のボランティアでは、

① 一食一円募金（1993年に創設より1年分の給食費用・図書購入費用など1,000ドルを寄託する

② 繁美基金の寄託と澄んだおいしい水の井戸を掘り、今後の支援について模索する

③ 大量虐殺のあったキリング・フィールド、トゥール・スレン強制収容所などを訪れカンボジアの悲劇の歴史を学び、平和構築について考えるなどを主な目的として行われました。参加者は6名、20代〜60代の若さ溢れるメンバー。



村の住人の方々やKPOメンバーと共に、井戸を掘りました
カンボジア人も日本人も汗をかきながらの共同ワークで、笑顔が絶えませんでした



大きな鍋で給食の鳥雑炊を炊いています



Prak Raing小学校の校長先生と
(左が筆者の田中真人さん)



子どもたちと一緒に折り紙をしました

カンボジアに到着すると、気温は34℃。空港でクメール平和の会（KPO）代表のクレット・セッタさん、昨年一緒に行動したスタッフ2名と再会を果たし、ワゴン車に乗ってコンポンチュナン州へ。車から外を見て、参加者が思わず「戦争が終わったばかりみたい...」。

使われなくなった線路沿いで、生活をしている人たちもいました。

翌日、支援先の小学校を2校訪れました。生徒たちとの再会に心が温かくなり、私のことを覚えていてくれたこともありがたく、うれしかったです。生徒たちは歌で歓迎してくれ、私たちも日本語の歌を歌って交流しました。図書室では楽しく折り紙をしました。そして、支援している月に一度の給食の時間になると、子どもたちは、大きな鍋で作られた鶏雑炊を目を輝かせて食べていました。

カンボジア「ポル・ポト政権の大虐殺」

《悲劇の歴史》

1975年～1979年にあったポル・ポト政権による大虐殺。ポル・ポトの思想は「原始共産主義」。

階級・格差のない社会を目指し、知識人層は自国には不要とする考えで、学校、病院、伝統文化、宗教、家族、通貨など、人々が培ってきた「文化」と呼ばれるモノは、邪悪な西洋文明に毒されているとして全て破壊した。

政治家、宗教者、教師、技術者、踊り子、医師、知識人と思われる人たち、メガネをしている、時計をつけている、外国語ができる、手が柔らかい（働いていない手）、それだけでみな殺された。

国外にいたカンボジア人たちも、「国の再興のためにあなたたちの力が必要だ」と呼び集められ、殺された。

《子どもたちの洗脳教育》

5～6歳以上の子どもは親と引き離され、夫婦はもちろん家族が完全に引き離された。そして子どもたちは、アンカと言われる組織に、「今のカンボジアをダメにしたのは、知識人である」と徹底的に洗脳教育された。逆らう可能性のある大人たちよりも、純粋無垢な子どもたちは重要な仕事を与えられ、大人達を管理、殺すようになる。教育の恐ろしさ、重要性を感じる。今では都市の発展はめざましいが、貧富の差が激しくなり、特に農村部では教育環境が整えられておらず、学校に行けずに貧困の連鎖が起きている。

今回の訪問のハイライトは井戸掘りです。
井戸掘りは、カンボジア人も日本人も、みんな一緒になって汗をかきました。
この地域では、雨期に降った大量の雨を大地が含んでおり、大地でろ過された雨水が井戸に溜まり、飲める水を飲むことができます。
この井戸ができたことで、野菜や果物の栽培が始まることになりました。少し離れた所から、牛たちも水を飲みに来るようになります。
国際交流とは、上から下を引き上げるのではなく、お互いに関わるることによって、お互い助かります。お役に立ちたいとの思いから実践し、「生きる」といふこと、「あたり前」があたり前



《ボランティア参加者》（敬称略）
《東京より》
田中 真人（44歳） 田中 隆一（20歳）
佐藤 雅信（42歳） 大江 靖（60歳）
《名古屋より》
鈴木 義子（28歳） 奥田ゆかり（25歳）

でない」といふこと、さまざまなことを学び、心温まる経験をしました。

井戸ができるまで



① クワで穴を掘る すべて手作業！



② 掘り出した土や出てくる水をバケツで汲み上げる



③ 皆で協力して深さ4m弱まで掘る



④ ロープを使い、人力でコンクリートのパイプを穴に投入



⑤ 土でパイプと穴の隙間を埋め 周りをコンクリートやレンガで固めて完成



⑥ 3日間かけて完成した井戸と共に記念撮影 左端がKPO 代表のクレット・セッタ氏

熊本支援活動 その3 餅つきと歌の会

3月17日(土)に、熊本県益城町木山上辻仮設団地と安永東仮設団地で、翌18日(日)には隣の西原村小森仮設団地で「餅つきと歌の会」を開催しました。

参加者は概算ですが、木山上辻と安永東が各40名ずつ、小森仮設団地は50名でした。またスタッフは、17日・18日、18日・15名で、延べ23名でした。

これら3か所での活動は、昨年3月の「餅つきと歌の会」、9月の「マツサイジイベント」に続いて3回目でした。住民の方々は、私ども「ひかりプロジェクト」のことを覚えていてくださり、「去年も来てくれたねー」と数名の方に言われました。

益城町には仮設団地が18か所あり、木山上辻、安永東の仮設団地はそれぞれ64戸・43戸と、比較的規模の小さな



木山上辻・安永東は各2臼、小森は5臼つきました



大根おろし餅・きな粉餅を作りました

所です。最近の様子を伺うと、自宅を再建したり、家族のところへ引っ越していく人がいる反面、みなし仮設から移ってくる家族もあるとのこと。益城町の町役場がちょうど取り壊し工事を行っているようですが、町内のあちこちに倒壊した家を撤去した更地が目立ちます。しかし、新築の家は見かけません。また、仮設団地に住む人々のために建設される災害公営住宅は熊本県の資料によると益城町では整備予定戸数680戸に対し、358戸分について設計に着手した段階のようです。

西原村の小森仮設団地は1か所にまとまっていますが、5つの仮設団地の集合体で、総数312戸あります。こちらは災害公営住宅の建設がもう始まっており、西原村で80戸予定されているうち、57戸が工事着手済みで、今年6月、7月に完成予定だそうです。



エレクトーンとギター伴奏で懐かしい歌も歌いました

地元の橋本信一さん、福岡の田中佐百合さんをお願いして、1カ月以上前にポスターを集会所に貼ったり、各戸にチラシをポスティングしてお知らせをしました。

それぞれの会場では、同じプログラムで子どもさんやご婦人の方々を中心に参加していただき、お餅つきを一緒にしたり、大根おろし餅、きな粉餅を作って皆で食べたり、またご近所に配ってもらいました。

「歌の会」では、横浜から参加の吉見文男・美紗子ご夫妻の指導のもと、エレクトーン伴奏、さらに、地元熊本の豊永晃太郎さんのギター伴奏も入り、懐かしい唱歌や青春歌謡から演歌まで幅広く一緒に歌いました。

また、2組に分かれての歌合せ(交互に一小節ずつ違う歌を、相手のメロディーにつられないように歌うゲーム)、じゃんけんゲームで楽しく盛り上がりました。



子どもたちもたくさん来てくれました

熊本地震から2年が過ぎ、ニュースなどでは現在の被災地の様子を伝えていますが、福岡あたりでも被災された皆さんが元の生活を取り戻していると思っているかも知れません。しかし、実際にはほとんどの方が仮設での暮らしを今も余儀なくされ、次の展望が開けない中で、不安になっていると聞きました。

仮設での孤立防止の取り組みや、見守り、また私どもが行ったような交流の活動などがますます重要になってきていると感じました。

(藤原真久)

ひかり新聞

No.34 2018年(平成30年)6月13日

発行者：一般社団法人 ひかりプロジェクト

〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口1975

電話 0555-72-8191 FAX 0555-76-6696

https://hikari-project.jimdo.com/ E-mail : hpa@road.ocn.ne.jp